

会議開催記録

会議名	第3回 菊川市総合計画審議会
日 時	平成27年6月30日（火）9：30～
場 所	菊川市 2階 庁議室
出席者	審議会委員10名 事務局7名
議 事	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 議事 (1) 菊川市版総合戦略の素案の検討について【資料1-1、1-2、1-3、1-4、1-5】 (2) 総合計画策定に伴うSWOT分析による戦略課題の検討について【資料2】 4. 閉会
議事要旨	1. 開会 ・15名委員のうち10名の出席により会議成立の確認 ・配布資料1-1～資料2の確認 ・副市長あいさつ 本日はお集まり頂き感謝します。早速ですが、本年度策定の、人口ビジョン、総合戦略、総合計画について、第1回審議会から建設的なご意見いただいておりますが、引き続き、人口減少問題、菊川市のまちづくり、全庁的に取り組みたいと考えております。 周辺の状況では、掛川市が、2025年を見据えた人口増加策の展開、牧之原市では、I C周辺28haにおける大規模開発を進めていくということです。菊川市では、長期を見据えた人口減少対策を進めていきたいと思っております。 それから、本日は事務局から総合戦略の素案としてまとめた内容や総合計画策定に伴う行政サイドのSWOTの検討成果についても報告等させていただき、住み続けられる菊川市づくりに向けて進めていきたいと考えております。 2. 会長あいさつ 会長： いよいよ総合戦略の検討も佳境を迎えています。その中で、内外の世情は一層不安定となっており、この数日でもギリシャの財政危機問題、韓国のマーズ問題などがありました。このような世界の動きが、いつ菊川市にも影響するかわからない状態であり、とてもんびりできる状況ではありません。また最近思うのは、昔に比べて国の能力も低下してきているということです。経済縮小のなか、今度の東京オリンピックスタジアム再建の予算超過などを聞いていると、このような状況がまかり通っているのは暗澹たる気持ちになります。この、まち・ひと・しごと地方創生も国が進めているところですが、これまで以上に地域の自立が問われているのだと思います。今後とも余程しっかりしていかないと、今後の大きな環境変化に埋没してしまうでしょう。 今回の議論は大事な場面となります。事務局からも新しい提案が出されています。今回も熱心なご議論、ご協力をお願いします。

3. 議事

(1) 菊川市版総合戦略の素案の検討について

(資料1-1～1-5、事務局説明)

(質疑)

会 長 : 資料1-1、22頁以降の総合戦略の骨組みについて、大枠を説明していただいたほうがよいと思います。

事務局 : 国から示されているテーマをうけ、菊川市では4つの基本目標を設定しました。基本的に国から示されているものをベースに作成していきます。

会長 : 資料1-1、24頁の「2基本方針」はどうでしょうか。

事務局 : 国の視点によるものです。

会長 : 26頁以降の内容は、この目標に沿って記述していくことになるのでしょうか。

事務局 : そのようになります。

会長 : この枠組みのなかで、具体的な施策について資料1-1～1-4、独自の政策は1-5で記載があります。その辺りを中心にご議論頂きたいと思いますが、まずここまで、ご質問、ご意見等如何でしょうか。

委員 : 「産・官・学・金・労・言」とは何を指しているのでしょうか。

事務局 : 人口ビジョン及び総合戦略の策定に際して、その内容に関するご意見を何うように求められている対象です。産・官・学はよく聞かれるところだと思いますが、今回特に「金＝金融」、「労＝労働関係」、「言＝マスメディア」についても、ご意見を何うようになっています。なお、本審議委員の方々には、この金融、労働、メディアの関係者は入っていませんので、事務局で個別に資料案を提示しながら、ご意見を求めていくようにしています。そこで出たご意見や、取り組むべき内容は計画に反映し、審議会にご報告していきます。

委員 : もう1点、「K P I」とはなんですか。

事務局 : 重要行政評価指数の略語です。総合戦略に示す事業等の達成度を図る数値目標を設定することになっています。

「産・官・学・金・労・言」のご質問の返答に補足ですが、今回のメンバー選出は、このような指示が出る前に行いましたので、事務局から個別に市内の金融機関、ハローワーク、静岡新聞社に、お声掛けしました。今後その方々のご意見も取り入れていけたらと考えております。

委員： 「婚活パーティー」については、２０１２年と２０１３年に商工会で、２０１４年にはアエルで開催されていたと思いますが、開催後に何か実績があるのでしょうか。結婚自体に意欲の無い方々も増えているようです。婚活パーティーというよりも、就職や子育ての問題など、そういう支援に力を入れるべきだと思います。

委員： 昔は共働きの場合、「女性」の就業は副次的な収入源で、主たる生計維持者ではなかったと思う。しかし、現在は、女性の就業（主たる就業者としての）が重要です。

外国人の視点では、EPTでなくとも、市在住者を雇っていることもあるそうです。市として外国人労働者を雇うなら、しっかりとした施策を立て、独自の教育制度など必要です。また、これからの福祉では、外国人の入所も想定されるため今後考えていかなければならないと思います。

将来人口として、社人研推計に対して５，０００人増を目指すようになっていますが、行政や地域を維持するための適正人口や、インフラ（学校設置、下水道整備等）の維持のための居住人口確保の視点というものが大事だと思います。

一番住みやすいまちとして、なぜ４５，０００人なのか、５，０００人増ということの積極的な考え方（方向性）の記載があると良いと思います。

事務局： 婚活パーティー等の事業実施結果の追跡はできていません。手法自体の検討も必要です。また、追跡とあわせて、子育て支援などの充実も必要です。開催後のアンケート結果から、「時間がもっと長いほうがよい」、「マッチングまで行ってほしい」ということも要望されています。今後、講演会はやめて、マッチングの時間などを増やしていきたいと思います。

また、適正な人口規模は必要だと思います。この裏付けは、財政的な部分が非常に大きなものになります。これから社会保障費の増大していくことも予想されます。財政的視点から適正人口というのは非常に難しいです。

この、社人研の推計通りだと、２０２５年に菊川市の高齢者は３１％になります。今ある施策だけ打っていても３０％を下回るのは難しい状況ですが、長期的な財政計画も見据えて、手を打っていききたいと思います。

会長： 参加の皆さんの出身分野からご覧頂いて、ご質問、提案などをいただけたらと思います。資料１－１～１－４にある施策について何かありますでしょうか。

委員： １点目、将来人口で社人研推計値より５，０００人増ということですが、それぞれの部署でどの程度検証（試算）しているのでしょうか。

２点目は、教育関係で、「ふるさと志向力を育むキャリア教育」という提案があり、この分野に小・中・高校の世代にまだ手がうたれていない面だと思います。ここに対策を立てられれば増加の可能性を感じます。基本方針は内容自体のインパクトがまだ弱いかもしれません。例えば、「学びでつなぐ菊川市」とか、キャッチフレーズのようなものもあればよいと思います。ゆりかごから墓場までのイメージが持てないことも定住の負の要因になっているように思います。生涯を通じて菊川市で生活できるイメージがもてる

思い切った構想を立てるべきだと考えます。

委員：子どもの頃から「地元を知る」機会があることは大事なことだと思います。市民の健康づくりの視点では、体育協会だけでなく、全市的な取り組みが必要だと考えます。

会長：小中高校生時代に郷土愛を育むアプローチが必要ですね。

副会長：資料１－３と１－４の関係がわかりませんが、今は個別に事業があげられている段階としても、これから、どのように関係させるかも重要ではないでしょうか。就学、就労、老後までのサイクルが見えることが定住していくためには大事だと思います。一方、今の案では、ほとんど「子育て」に注視されていますが、就業した後にも菊川市に戻ってくるような人はまだ多くはありません。この辺りの改善が必要だと思います。

事務局：５月末時に約４９０件に及ぶ提案を頂いたところですので、これから資料１－２を中心に内容を反映していくことになります。また、８月開催予定の議会にも出していき、９月の審議会に提示していくことになると思われます。この流れの中で各部からもご提案をお願いしたいと考えています。

委員：副会長がおっしゃる通り、ゆりかごから墓場までのイメージが持てることが大切です。ＩＣＴを活用した教育としてアイパッドの導入は素晴らしいと思いますが、だから他地区から転入してくるということは考えにくいです。大事なのは、地方に居ながらも世界に発信できる起業家を育てる、起業家教育を推進するんだ、といった菊川市ならではの教育の将来像が必要だと思います。だから菊川市はＩＣＴ教育に力を入れているという、ＩＣＴ教育の行き先を示すことだと思います。

会長：「循環」をイメージした施策ということでご理解願いたいと思います。

副会長：資料１－３に新規事業がありますが、取捨選択していくと、このままでは厳しい内容があるでしょう。「結婚したら苗木をプレゼント」というようなものは置いておいて、新しいことをやるために、既存の事業も見直し、止めてしまうということも大事だと思います。

委員：社会福祉協議会に所属しているため、福祉の観点から発言させていただきます。２０３１年で高齢者人口が３０％を超えることになっています。(高齢社会というなか)現在、市内循環バスがありますが、既にバス停までも歩いて行けないお年寄りも居ます。運転手が有料でも送迎するなどしているところです。菊川市の地形上、東部の山間地など交通の便が悪い地域もあります。今後どのようにカバーするかも課題です。

市内で懇談会がありましたが、特養への待機数もかなりあり、老健もありますが、まだ１００％ではないのが現状です。家族が安心して過ごすための高齢者施策については、まだ不十分だと思っています。一方、菊川市は生活保護世帯が少ないという特性もあります。比較的生活が豊かな人が多いのではないのでしょうか。今までの施策の成果である

とも感じます。

会長：どちらかといえば高齢者に偏っている福祉施策を子育ての方へ注力しているとも言われていますが、福祉施策が充実していればライフサイクルのなかで安心してみんなが定住できることもあります。

委員：将来ビジョンとして出生率向上と転出抑制を図るということですが、施策効果が出にくい部分だと思います。特に出生率向上は、強力なインセンティブがある、もしくは他と差別化できるような政策として議論しなくては実行力がないと思います。

会長：他の自治体との差別化は必要だと思います。

委員：あげられている事業ごとの因果関係が見えにくいので、具体的な見方をしないといけないと思います。

委員：色々施策は出てきましたが、結果に結びつくかどうかが問題です。基本目標の数など、もっと絞らないと分散してしまうのではないのでしょうか。

もう一つは、例えば市に人口増のみに集中して対応する「課」の設置などがあってもいいのではと思います。

（２）総合計画策定に伴うSWOT分析による戦略課題の検討について

・資料２について説明

会長：このSWOT分析というのは、いわば海図のようなものだと思います。これらを情報として活かし、今後の総合計画、また短期的にはこの総合戦略に活かしていきたいと思います。何かご意見ありましたらお願いします。

委員：「内陸フロンティア」については、何か菊川市に指定があるのでしょうか。

事務局：これは静岡県プロジェクトですが、農業の６次産業化について指定があります。

会長：今回の意見もふまえて、その後事務局で補足したのをつくってもらいたいと思います。その他、総合戦略についても、特にあればご意見お願いします。

委員：基本方針が５つ出ていますが、もっと絞って重点的に進めるものを決めてもいいのではないのでしょうか。例えば教育面なら、「菊川市民は中学卒業までに日常英語は話せるようになる」くらいの勢いが欲しいとは思っています。

委員：「深蒸茶」についてですが、産業関連における位置づけは、まだありそうな気がします。例えばオランダのアムステルダム空港の近くに（特産物としての）花の市場があり産業観光になっていると聞いたことがある。そういうインパクトになればいいと思います。

委員：若い夫婦や、子持ちの家族を菊川市に呼びこむ、ということが切り口だと考えていました。まず呼び水として力を入れるもの、そこを定めてやらないとばら撒きになってしまうと思います。

会長：地方版総合戦略は各自治体がつくるコンペのようなものだと思います。これから国の審査になりますが、採点に乗るよう、国策に沿ったものを考えることが重要だと思います。しかし、意見にありましたが介護における外国人の取り入れというのは、ニーズはあっても細かい所でマッチしない気がします。単純に外国人労働者を増やすことだけは反対ですが、外国人については非常に貴重な戦力にもなるのでうまく活かして地域に定住してもらえば国策としても非常に助かると思いますし、このような政策を出す自治体はないと思います。

菊川市には際立った特徴というものは無いのかもしれませんが。いい意味ではバランスが取れているのかもしれませんが。しかしSWOT分析を通じてたくさんの言葉が出てきたので、これらを掘り下げていけたらと思っています。(深蒸茶、広域連携など)

また、駅北の整備は財源的に負担も大きいもので、3年程度では無理かもしれませんが、藤枝市は人口が増えています。これは駅周辺を開発して文化あるいは体育、商業施設を造るなど強力な施策を打ってきています。駅周辺の構想についてもここで考えておかないと、周りに持っていかれる、ということにも注意しなければいけません。

この段階で非常に大きな素材が出てきていると思っています。如何に練り上げて戦略にするか、5つの目標を総括する上位の目標設定や、ポジティブな情報をどんどん周りに発信していくことが大事だと思います。以上にして、議事はこの辺でお返ししたいと思います。

4. 閉会

副会長：現状、総合戦略と総合計画の2本を検討していますが、相互にリンクしているもので、切替えてしまうとバラバラとなってしまいます。2つを合わせながらやっていく必要があります。

2回目以降、頭にあったのは、菊川市のブランドとはなんだろう、ということ、それが発展の基だと思っています。ブランドがあるものとないもので結果が違ってきます。菊川という町は何もない、非常に静かな町という印象でありましたが、これからは立ち行かない、そこで考えるのが「ブランド」だと思います。

また、本市がどういう街なのか知ってもらうことが必要だと思いました。外に発信する力が菊川に無いのは致命傷であると思います。今後そこを克服していけたらと思います。

以上